

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700248		
法人名	社会福祉法人 もやい聖友会		
事業所名	グループホーム蓬萊	ユニット名	①
所在地	福岡県北九州市八幡西区森下町27-38		
自己評価作成日	平成25年3月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月26日	評価結果確定日	平成25年10月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人のご意見、ご要望をご家族様と話し合いを持ちながら、一人一人の気持ちに沿うように個別(1~3名)でのお出掛けの計画実行、日々の生活の中で、自尊心に配慮しご自分のペースでいきいきと気持ちよく過ごして頂く事が出来、大切な時間を一緒に生活できるよう心がけ支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合型施設の1階に位置し、特別養護老人ホームや小規模多機能型事業所、ショートステイが併設されている。施設入口の多目的サロンには書籍や展示物が並び、最上階のレストサロンは眺望もよく、時には地域の方も交えコンサートや演劇も披露されている。外出の機会も多彩であり、希望や関係性を踏まえ、ボランティアの協力により皿倉山で夜景を楽しんだり、地域の伝統行事(どんと焼き・龍王神社秋祭り・竹末山笠祭り等)への参加、図書館の利用、車椅子のまま作業できる畑作り、茶会への参加、買い物等、個別性ある支援が行われている。日常の暮らしは、個別のライフスタイルやリズムの把握に努めながら、意向確認や自己決定の場を大切に捉えた対応や言葉かけが印象的であり、個人の尊重への意識の高さが伝わってくる。法人として地域との連携に積極的に取り組み、本人本位の社会参加や地域交流の機会の拡大に結びつけながら、福祉拠点としての活動展開を図っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念、「おたがいさまで笑顔がいっぱい」の言葉を忘れず、職員同士や、入居者、家族、地域の方とのつながりを大切に、地域の行事に参加したり、施設行事には地域の方にご参加いただいている。	入居者や家族、地域の方々や職員とともに、人と人とのつながりを大切にしながら、地域拠点としての活動展開を図っていくことを、独自の理念や運営方針の中に掲げている。運営推進会議のメンバー構成や複合型施設としての情報発信等、様々な取り組みから理念の実践に向けた働きかけが確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域とつながりながら生活していけるよう、地域の行事に積極的に参加し、地域の方々にも、施設内の行事にご参加していただいている。(例:どんど焼き、そうめん流し、お茶会etc)	複合型施設全体で町内会に加入している。地域行事や施設行事の際は相互に参加、協力を行っており、地域住民と職員により、認知症啓発の為の劇を披露した経緯もあった。竹末山笠祭りや龍王神社秋祭り、どんど焼き等、地域の伝統行事に参加し、交流する機会も多い。施設内には保育室もあり、日常的にふれあう機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の方と職員とで認知症理解の為の劇を行ったり、運営推進会議の場等において、報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の状況や実際の取り組み状況について、画像のスライドショーや文書を通して報告を行い、意見をいただきサービスの向上に活かしている。	全家族への開催案内を行い、運営推進会議は定期開催されている。多彩なメンバー構成で開催されていることは大きな特徴であり、様々な立場からの意見や情報提供を、サービスの向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス相談員の受け入れを月に2回行い、日ごろから連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。行政主催の研修参加や、月に2回の介護サービス相談員の受け入れを通じて、情報共有や連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の禁止事項について正しく理解できるよう内部研修や外部研修などに参加して学び、また、ミーティングなどでも情報を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束やリスクマネジメントに関して学ぶ機会を確保し、職員や家族との共有認識を図っている。言葉使いや対応による抑制についても、ミーティングやその都度の振り返りを行いながら、意識向上に努めている。各ユニットの愛犬の存在を、ストレスの軽減や精神的安定へと導いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について外部研修に参加する等学ぶ機会を持ち、利用者様のご自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、自立支援と成年後見制度について外部研修に参加したり、外部講師を招いての研修会を毎月1回行い、職員の学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については、入居時や必要時に情報提供を行い、現在、活用に向けた支援や必要性の検討も行われている。職員が制度について学ぶ機会を確保し、理解を深めるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者様やご家族様等の不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人様やご家族様の意見や要望を反映できるよう、常に声掛けなどを行い、また、ご家族様が来所された際にはお話を伺うようにしている。	全家族に運営推進会議の開催を案内し、意見や要望を出出できる機会を確保している。また、日常の中では、食事の際の愛犬とのふれあいについて、入居者同士で話し合う機会を持ち、ルール作りに参加してもらう等、暮らし方に反映している。様々な行事は家族に案内し、コミュニケーションの機会を大切にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段の業務中やミーティングの際など職員の意見や提案を聞くようにし、代表者へつなげるようにしている。	毎月の定例ミーティングや日常の中で、職員の意見や提案を収集している。バーベキュー大会等のレクリエーションのアイデアが実行されたり、手摺の位置等に関する環境整備の提案も採用されており、全体での検討を通じて、職員意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢などによって対象から排除しないようにしている。また、採用が決まった職員に対しては、その方の人権を尊重しつつ、その方の能力や力が十分に発揮できるよう配慮している。	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行われていない。基本的には常勤採用となり、現在、20代から60代の職員が勤務している。施設内には保育室も完備される等、福利厚生は充実している。レクリエーションや楽器演奏等で職員の得意分野を活かす場面もある。法人代表者との個人面談の為の機会が確保されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対する人権を尊重するために、ミーティングの際などで話をするようにしている。	内外の研修参加や伝達を通じて、認知症ケアやメンタルヘルスも含む、様々な視点から人権教育、啓発に取り組んでいる。また、日常の中でも、尊厳やプライバシーに配慮した関わりとなるよう、職員教育が行なわれていることがうかがえる。	

福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修がある際にはお知らせをし、学ぶ機会を作るようにしている。講師を招いての研修を定期的に行ったり、外部研修受講者が、他の職員に対してフィードバックを行ったり、事業所間研修を毎月実施したり、働きながらも学べるよう、勤務時間を配慮したりしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたって、情報を収集し、事前に困っていること、不安なことなどを聞き、安心して過ごして頂けるよう配慮している。また、声掛けを密にするなどし、関係づくりにも努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人様ご家族様共に安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集したり、話を聞いたりする中で、本人様、ご家族様に何が必要であるかを見極め、他のサービス利用も含めて検討するよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、介護される人という関係ではなく、お互い支えあい、暮らしを共にする者同士という関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様を、支援される一方の立場におかず、ご本人様とご家族様の絆を大切にしながら、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、利用者様お一人お一人の意見を尊重し、外出等の機会を作り支援に努めている。	地域の伝統行事(どんど焼き・龍王神社秋祭り・竹末山笠祭り)に参加することで、旧交を温める機会となる場面も多い。自宅の様子を見に行ったり、家族との連携による礼拝の継続、ボランティアの協力を得ながら皿倉山での夜景を楽しむ等、希望や関係性を踏まえた支援が行われている。	

福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の様子や利用者様の話の中から、利用者様同士の関係を把握し、希望に沿うように、また孤立しないよう席を工夫したり、職員が間に入ったりして関わり合いを持てるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方が1名しかいないが、今後はご家族様が希望すれば、行事の案内を送ったり、相談に応じたりするようにしていきたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、困難な場合は、ご本人様本位に職員同士意見を交わし、検討している。	日常の様々な場面で、その都度意向を確認し、思いや希望に応じた支援も確認できる。意思の表出が困難な場合には、家族の協力も得ながら、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様の話の中から、お一人お一人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をとり、利用者様それぞれの現状把握に努め、職員で共有するようにしている。何か変化がある時には、ミーティングなどで話し合いを行い、情報を共有できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、または状態が変わる都度、本人様がよりよく暮らせるよう、本人様、ご家族様、職員等で話し合いを行い、介護計画等を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、ミーティング等にて協議を行い、介護計画を作成している。毎月、担当者によるモニタリングが実施され、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	職員個々が持つ情報の共有や、新たな観察の視点を確保していくためにも、アセスメント様式の充実や記録様式の工夫が期待されます。また、計画作成に活かしていくことで、実際に取り組んでいるケアを関係者間で共有していくことや、効果的なモニタリングへと結び付けて行くことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の意向や状況、ニーズに応じて、他のサービス利用の検討や柔軟な支援ができるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人お一人の暮らしを支えている地域資源を把握し、ご本人様が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人様及びご家族様の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるようご家族様のご協力のもと、支援している。	入居時に、かかりつけ医について確認し、本人、家族の意向を大切にしている。家族との連携を図り受診を支援し、また、協力医療機関との連携も密に図りながら、安心できる体制を整備している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際などは、病院に会いに行ったり、ご家族様から状況を聞いたりして早期に退院できるよう、病院関係者と連絡をとったり情報交換をするよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを十分に説明し、終末期に向けたアンケートを3ヶ月に1回実施し、ご家族様やご本人様の意向を確認している。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明し、事前確認書による意向確認を行っている。本人、家族の意向については、3ヶ月ごとに確認する場面を持ち、方針の共有に努めている。関連する医療機関との密な連携のもと、意向やニーズに応じていく意向である。終末期やターミナルケアに関する研修に参加し、報告書による伝達が行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、グループホーム内で研修を行い、応急手当や初期対応の仕方を確認し、実践力を身に付ける努力をしている。		

福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず利用者様が避難できる方法を全職員が身に付けるよう、地域の福祉協力員の方々のご協力のもと、年に2回避難訓練を実施し、協力体制を築いている。	地域の福祉協力員、10数名の方々の参加を得て、避難訓練を実施している。日頃から行事等にて交流もあり、協力体制を築いている。複合型施設全体での訓練となり、消防署との連携も図るようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を日々心がけ、職員同士注意しあい、より過ごしやすいよう配慮し対応している。	排泄ケアの際のさりげない対応や、支援する際の意向確認等、人格の尊重やプライバシーの確保に向けた、意識の高さが伝わってくる。また、生活リズムの尊重や自己決定の場面づくり等、個別性ある支援が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人様が思いや希望を表したり、自己決定できるように声掛けを工夫したり、こまめに声掛けをしたりして働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、お一人お一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにご本人様の意見を尊重し支援している。また、週に1度、理容師が訪問し、希望される方には利用していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今ある材料から何が作れるか、利用者様から意見をいただいたり、一緒に食事の準備や片付けをしたりして、食事を楽しむことができるよう支援している。	週に3回程、買い物に出掛け、時には同行される入居者の方もいる。包丁を持ち調理に携わったり、引き膳や洗い物を役割として担う方もおり、個別の意向や状況を踏まえ、支援が行われている。玉ねぎや小松菜、ほうれん草、じゃがいも等の野菜作りも行われており、生育や収穫を楽しみながら、食卓を賑わす場面もある。毎日、手作りおやつを提供している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、支援している。確保できないようなときは、食事や水分をお好きなものに変えるなどして確保できるよう努めている。		

福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個々のできる範囲でしていただき、できない部分は介助を行っている。必要な方は、訪問歯科受診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛け、排泄パターンの把握などにより、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援している。	排泄チェック表を用い、個別の状況やパターンの把握に努め、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。夜間は個別の状況を検討し、対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、水分量のチェックなどを行い、便秘の原因を把握し、飲み物(バナナジュースや黄粉ジュースなど)の工夫や腹部マッサージ、運動への声掛けなどを行い予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援に努めている。体調不良などで入浴が難しい方は、清拭を行うなどして清潔保持に努めている。	浴室はゆとりある広さを確保し、浴槽も3方向からのアプローチが出来るように配置されている。基本的には、日勤帯の中での支援となるが、希望や状況に応じて、夜間もシャワー浴等にて対応する等、柔軟な支援が行われている。季節の菖蒲湯や入浴剤を用いながら、ゆっくりと入浴を楽しめるよう雰囲気作りが行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自室やリビングのソファで休息をとっていただけるようにしている。また、夜間は居室の室温などに気を付け、気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法・用量についての情報を職員間で共有し、服薬の支援と症状の変化の記録・報告・確認に努めている。何かある時は、主治医に報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望に合わせて外出をしたり、買い物に行ったりし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		



福岡県 グループホーム 蓬萊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人お一人のその日の状況にそって、戸外に出掛けられるよう支援に努めている。普段行けない場所でもご本人様の希望を把握し、ご家族様や地域の方々と協力し、個別でのお出掛け等の支援を行っている。	気分転換や健康維持、生活リズム等への効果を意識し、適度な日光浴を日常的に行なっている。希望に応じて、皿倉山で夜景を楽しんだり、野菜作りや肥料作り、お茶会、図書館の利用、伝統行事の参加、買い物等、積極的な外出支援が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人様がお金を持つことの大切さを理解しており、お一人お一人の希望や力に応じて、お金をご自分で管理して頂き、買い物ができるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて、ご家族様や大切な方へ、ご本人様自らが電話したり、お手紙のやり取りができるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が利用者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ユニットごとに、ウッドデッキや車椅子のまま作業できる菜園が設けられている。また、複合施設内のサロンや屋上緑化スペース、茶室やカラオケルーム等、活動範囲は広い。調度品や装飾等、潤いある生活空間作りへの配慮が、随所から伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、独りになれたり気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるよう席やレイアウトに配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた物や好みの物を持って来ていただいたりして、ご本人様が居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は畳敷きとなり、窓には障子が設置されている。家族の協力も得ながら、筆筒等の使い慣れた家具や、大切な写真が飾られ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ内、脱衣所等、安全かつ自立を目的とした手すりを設け、入居者の状態に応じて見守りを行い、できる限りご自分の力でやっていただけるように対応している。		